

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・24年度は7地区、59.8haでほ場整備事業を実施した結果、年度末の水田ほ場整備済み面積は28,168haと年度目標の28,206haに対する達成率は99.9%となった。
②	・施業の集約化を進めている団地を中心に森林作業道等の路網整備を進めた結果、効率的な素材生産体制の構築が図られた。
③	・県農林水産研究指導センター水産研究部浅海チームの指導により、県内民間業者においてイワガキ種苗143千個を生産することができた。
④	・予防策である防護柵の設置(970km)や鳥獣害対策アドバイザー研修会(6回)の実施により人材育成に取り組んだ。また、鳥獣被害対策本部会議(3回)を開催し、関係機関が一体となった取組を進めた。

【Ⅴ. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(24年度事業)	事業コスト(千円)	25年度の実施状況	主要な施策の成果掲載頁
①	水田農業構造改革支援事業	210,555	終了	185
	(公)ほ場整備促進事業	1,779,494	継続	192
	(公)中山間地域総合整備事業	2,649,835	継続	193
②	林業再生路網整備事業	364,812	継続	189
	(公)林道事業	1,372,600	継続	194
	(公)造林事業	1,867,883	継続	195
③	資源管理強化拡大対策事業	33,298	継続	191
	地域養殖業振興対策事業	12,106	継続	190
	(公)沿岸漁場基盤整備事業	1,252,990	継続	196
④	鳥獣害被害総合対策事業	380,281	継続	186
	森林シカ被害防止対策事業	96,567	継続	187
	鳥獣害と戦う集落支援事業	16,673	継続	188

【Ⅵ. 施策に対する意見・提言】

○県政ふれあいトーク(H24. 10. 17) ・有害鳥獣捕獲について、国東半島ではイノシシは減少したがシカは増加しているようだ。シカ対策にも積極的に取り組んで欲しい。	○県政モニター(H25. 1. 17) ・急傾斜地に植林された針葉樹などは、30から40年生でも豪雨に見舞われると流木化しかねない。県の助成による間伐等で立木の根もしっかりしてきたが、引き続き適正な山林整備に対する助成と指導をお願いする。
---	--

【Ⅶ. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・水田のほ場整備面積は、目標面積の99.9%とほぼ達成している。今後も効率的な水田農業の展開を図るため、水田基盤の整備を引き続き実施する。 ・森林の持つ公益的機能の維持と同時に木材生産機能の増進を図るため、間伐等の森林整備や林道等の路網整備を引き続き進めていく。 ・本県の水産資源の維持増大を図るため、一部地域や魚種に限られている公的規制を伴った資源管理と種苗放流による資源管理強化の取り組みを引き続き拡大していく。 ・鳥獣による被害額は減少傾向にあり、被害対策の効果が現れている。今後も集落環境対策としての「戦う集落づくり」や、シカの捕獲対策を推進していく。